

## 春焼き#2～火入れ

1. 実施日時 令和4年5月29日（日） 10：30～16：10
2. 実施場所 仁多郡奥出雲町佐白地内（ダムに見える牧場林地）
3. 参加者数 火入れ従事者19名（学生14名、一般5名）  
※参加者住所地（松江市、安来市、雲南市、川本町）
4. 概要 12時35分着火、13時20分延焼終了、14時40分鎮火。  
晴れ、最高気温30℃、湿度不明、風0～2m（着火時0m）。  
火入れ面積約3アール。飛び火はすべて初期消火。区画内すべて燃焼。
5. 今後の予定
  - 播種、間引き、草刈り等栽培管理（雑穀、根菜類、豆類等）
  - 次回の火入れに向けての準備（竹の伐採、草刈り等）
  - 火入れ地周辺の植生遷移観察
  - 奥出雲を中心とした関連する広域での在来作物調査、伝統食文化調査の継続

### 6. 状況写真

▼人員配置・機械動作確認後、風下山手（区画の南西斜面上方）より着火。拡がり方をみて上方反対端からも着火予定であったが、横への拡散が早いため、自然延焼にまかせた。



▼火勢が十分であったため、火回し人員もすべて防火・消火へまわり飛び火監視と初期消火にあたった。



▼14時延焼が下部まで達し、火勢が落ち着いてから、燃え残りの火回しへも数名をさきながら鎮火まで監視。



## 7. その他（経過と次回へ向けて検討事項等）

### ●春の火入れについて

・区画Aと比べればなだらかで均一の斜面で火をまわしやすい地形であり、また風の影響も出にくい。そのぶん、竜巻状旋回流が発生しやすい状況で、今回かなり頻繁にみられた。今回同様の乾燥度で面積が2倍以上ある場合はリスクが高まることが推察できた。火のまわりに遅延が生じるような伏せ方を要所にいれるなどが必要である。

・竹は伐採から半年ほどのものが大半で、古竹や伐採1ヶ月程度のものもまじる。古竹が上におかれた場合、火のまわりが早いことと、火がつきやすいため飛び火の影響を受けやすいことから、置く場所をコントロールすべきことがわかった。

### ●時間経過

- 10:30 準備開始。一般参加受付開始。
- 10:45 松江からの部隊順次到着。背負水囊へ給水。道具・機械集約と各自備品確認。軽トラへの積み込み、参加者名簿連絡先確認等。
- 11:15 全体ミーティング
- 11:20 現場へ移動。状況確認、エンジンポンプ・ホース・ノズル設置と放水テスト。
- 12:30 北西斜面上部より着火。
- 12:35 延焼開始。
- 12:45 上部両翼まで火炎ひろがり火勢強まる。この後、数分で急拡大。
- 12:50 区画中部への飛び火により、両翼から下方へ延焼拡大。
- 12:55 区画面積の半分に火がまわる。この時点で、もっとも火勢強まる。飛び火の消火盛ん。
- 13:00 上半分ほどの火炎は収束。燃焼の中心帯は下方へ移るとともに、火勢は落ち着く。上部では竜巻状旋回流が幾度か発生するも、炭の飛散はなし。（下方燃焼帯に勢いがあるため、下方へは押し下がらず）
- 13:13 延焼終了（最末端まで燃焼部到達）
- 14:30 末端部鎮火  
防火帯外周林内への防火放水、炭化切株への処置、縦列確認後、撤収開始。
- 14:45 鎮火。現場監視5名を残して撤収、片付けへ。
- 15:20 現場監視の撤収開始
- 15:50 片付け終了
- 16:00 全体ミーティング後、解散。火入れ責任者、現場最終確認後退去。

---

†. 令和4年度竹の焼畑事業は「出雲の山墾り～竹の焼畑2022」と呼称。奥出雲山村塾、島根大学里山管理研究会、森と畑と牛と、ダムの見える牧場が主要主体となって取り組んでいる事業です。